

KDDIは、2016年3月期より、従来の日本基準に替えてIFRS(国際財務報告基準)を任意適用しました。ここでは、それに伴う影響についてご説明します。

2016年3月期からのIFRS導入について

QUESTION 01

IFRS導入の目的は？

日本企業のIFRS適用会社が増加する中で、当社もIFRSを適用することにより、財務情報の国際的な比較可能性を通じ、投資家の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまに対し、より有用性の高い財務諸表を提供することが可能となると考え、2016年3月期からのIFRSの導入を決定しました。

QUESTION 02

IFRS導入による、従来の日本基準との主な変更点は？

IFRS導入による日本基準との主な変更点は、下表の5点です。

項目	日本基準	IFRS
(1) 販売手数料のうち 端末値引原資に当たる 費用	営業費用として計上する	営業収益(端末販売収入)から控除する
(2) のれん	定額償却を行う	定額償却は停止され、 毎期減損テストを実施する
(3) 固定資産の 償却方法	機械設備については主に定率法、 その他の固定資産については 定額法を用いて償却する	使用可能期間を見積ることで 耐用年数を決定し、定額法を用いて償却する
(4) 連結範囲	議決権の過半数を保有している 企業および議決権40%超～50%以下で 一定要件を満たす企業は 支配していると考え、連結対象となる	潜在的議決権を含め、 実質的支配力によって判断するため、 日本基準では持分法適用関連会社である UQコミュニケーションズ株式会社が 連結子会社となる
(5) 特別損益の扱い	特別損益を表示し、経常利益に 有価証券売却益などの特別利益と 減損損失などの特別損失を 加味することで税引前当期純利益となる	<ul style="list-style-type: none"> 特別損益の表示はなくなる 減損損失などの日本基準では特別損失に 該当する項目が主に営業費用(売上原価)と なる 有価証券売却益は、包括利益へ